



迫山多恵子 さん

6年（門前区）

私たちの向陽小学校は、全校児童122人の小さな学校ですが、みんな一つの家族のように仲良しです。毎年、1年生から6年生までが、ふれあい班という一つの班を作り、活動することによってふれあいを深めているからです。



毎週水曜日に行われるお話会、全校で仲良く遊ぶハッピータイム、たてわり班そうじ、児童集会など、1年間いろいろな活動を行っています。班は毎年変わるの、いろいろな友だちと触れ合うことができます。そして、友だちと協力することの大切さも学べます。

今年もかわいい1年生15人をむかえ、ふれあい班がスタートしました。1年生が楽しい学校生活を送れるよう、私たち6年生が班長としてしっかりお世話をしたいと思えます。



昨年5月 奥さんと一緒に

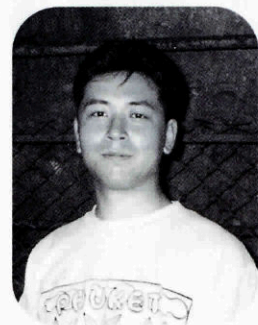


仙崎中新町で、妹さんと広田衣料品店を営んでいる。「お元気ですねー」と尋ねると「病院は眼科へ行くだけで風邪もひかないし、薬は全然持っていません」と健康そのもの。

話は、小学校の頃からの記憶が口をついてドンドン出てくる。「父親が漁業をしていたので、兄がよく手伝わされていた。少しでも兄を助けようと自転車に乗って仲間の漁師にく船が出るよーと声を掛けて回った」という。そばにいた妹さんが「女が自転車に乗ったら笑われる時代でしたよ。兄思いの活発な姉でした」と話す。学校を卒業して、看護婦になりたくて親の反対を押し切って広島へ行った。「お金がなくて独学で勉強した。反対した親も援助してくれたが」

ふるさとながと ③⑧

こんにちは



原田直重 さん (埼玉県新座市)

ふるさととは不思議なもの

略歴

昭和41年仙崎で生まれる。現在、(株)富士情報システム部係長。システム開発及び企画、インターネット関連の仕事に従事。

東京の大学に入学し、そのまま東京の会社に就職。アツという間に10年以上の月日が過ぎてしまいました。考えてみれば、あと5、6年で私が長門で生まれてから過ごした18年間と、同じ年月をこちらで過ごすことになりません。でも、何年こちらで暮らしても、気持ちの中に「自分の家は山口県長門市仙崎」とあるのです。ふるさととは不思議なものですね。

上げていけると良いですね。

昨年8月の後半に仙崎に帰りました。時間の流れがいつもの何倍にも感じられ、久しぶりにゆっくりと休日を過ごせた気がします。

遠く離れてみなければふるさととの良さは見えてこないもの。あと数年したら長門に戻って暮らそうかなと、最近思いはじめています。